

3.2 河川の変遷

(1) 河道状況の変化

流路の変遷

1) 円山川・出石川

豊岡盆地の六方川合流点から上流の円山川・出石川は明治期の河道は大きく蛇行を繰り返していたことが伺える。大正9年から昭和34年の間に実施された河道改修工事により、河道が直線化し、築堤等により河道も固定化している。

2) 鎌谷川

鎌谷川では、六方川と同様に昭和22年～昭和34年にかけて、中下流部において河道改修が実施されている。また、1994年以降には、最下流右岸側の一部が護岸改修が行われている。なお、平成11年（平成6年～平成14年の間）に、中流部にコウノトリ公園が開園され、この区間については、木工沈床などが設置された多自然的な改修が実施されている。

3) 六方川

六方川では、昭和22年～昭和39年にかけて、中下流部において河道改修が実施されている。また、昭和59年には、下流部に存在する屈曲部が消失している。

さらに、平成6年には、上流部の両岸において護岸改修が実施されており、六方川の堤防の大部分は土羽であったものが、この区間のみ人工的な護岸となっている。

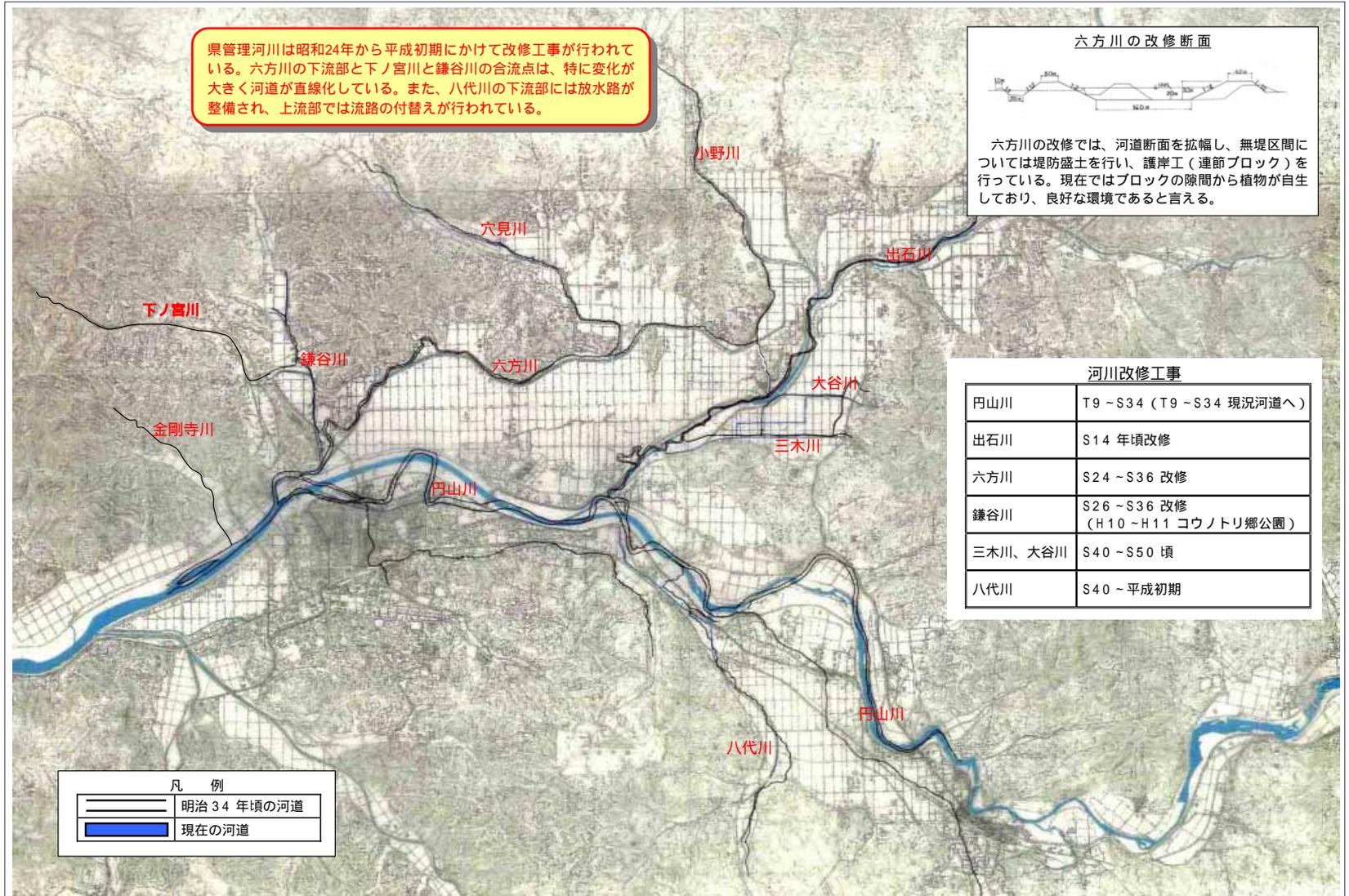
河川改修工事

鎌谷川と六方川の河川改修工事の変遷を示す。

鎌谷川：鎌谷川の改修工事は昭和26年に始まり36年に完成している。鎌谷川の改修工事にあわせて下ノ宮川の下流、三江小学校までの間を改修している。（コンクリート三面張）

六方川：六方川の河川改修工事は昭和21年度から昭和26年度に第一次築堤工事を行ない、その後昭和30年から36年にかけて河道の拡幅と築堤工事を行なっている。昭和36年度には現在と同じ築堤形状であった。

流路の変遷



県管理河川は昭和24年から平成初期にかけて改修工事が行われている。六方川の下流部と下ノ宮川と鎌谷川の合流点は、特に変化が大きく河道が直線化している。また、八代川の下流部には放水路が整備され、上流部では流路の付替えが行われている。

六方川の改修断面

六方川の改修では、河道断面を拡幅し、無堤区間については堤防盛土を行い、護岸工（連節ブロック）を行っている。現在ではブロックの隙間から植物が自生しており、良好な環境であると言える。

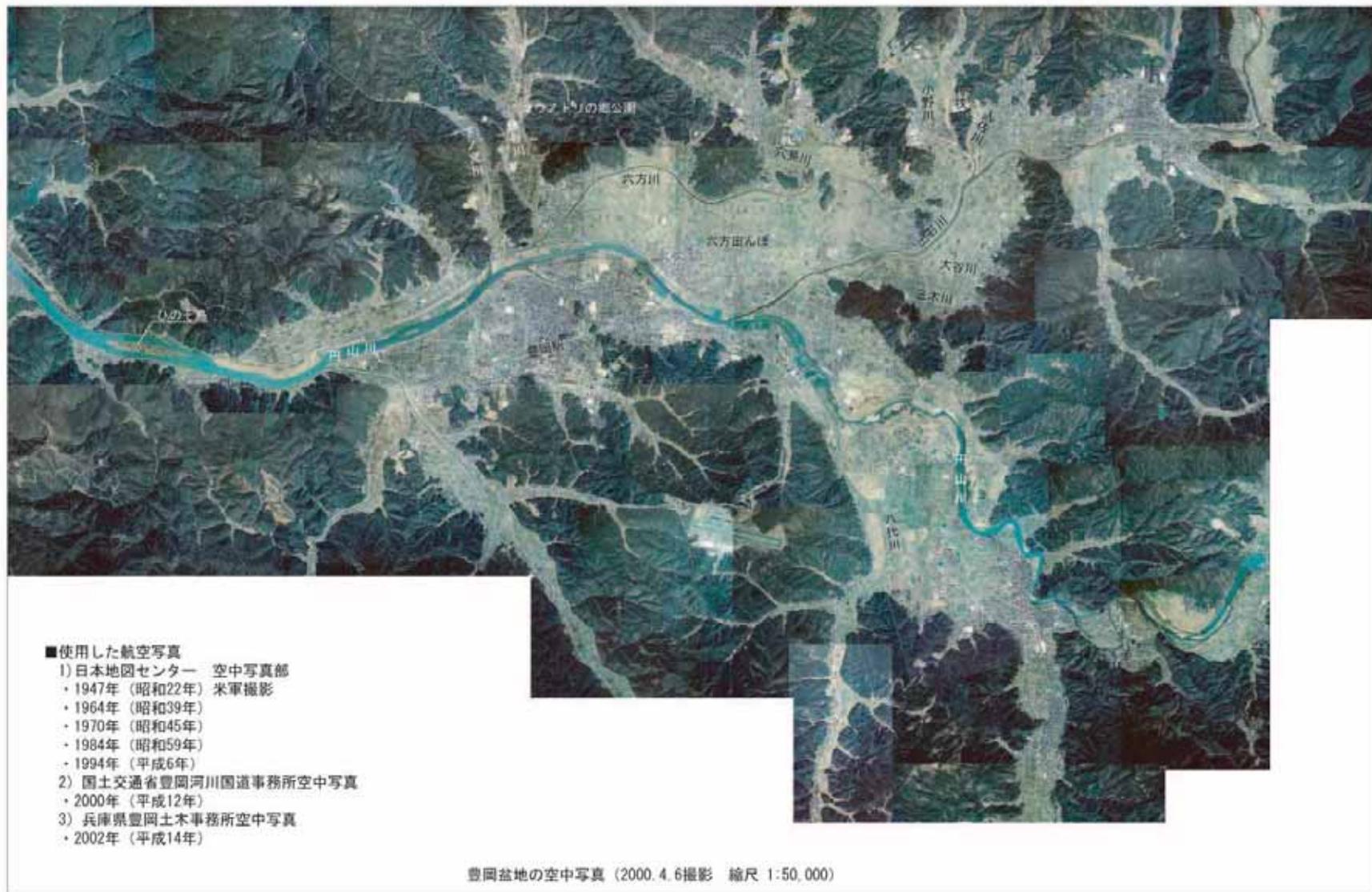
河川改修工事

円山川	T9～S34 (T9～S34 現況河道へ)
出石川	S14 年頃改修
六方川	S24～S36 改修
鎌谷川	S26～S36 改修 (H10～H11 コウノトリ郷公園)
三木川、大谷川	S40～S50 頃
八代川	S40～平成初期

凡 例

	明治34年頃の河道
	現在の河道

(2) 航空写真からみる変遷



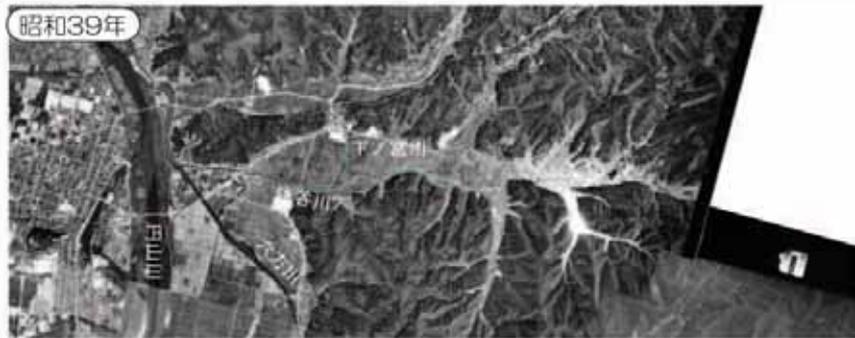
昭和22年



昭和59年



昭和39年



平成6年



昭和45年



平成14年



昭和22年の航空写真をみると、鎌谷川、下ノ宮川の合流点が現況と異なっている。また、六方川には旧川の蛇行していた様子がみられる。河道改修は昭和39年に終了している。現在のコウノトリの郷公園付近の水田が区画整理されたのは昭和45年から昭和59年である。

昭和22年



昭和59年



昭和39年



平成6年



昭和45年



平成14年



六方田んぼの区画整理はかなり早くから行われていたと思われる。文献によると、昭和3年頃から水田区耕地組合が創設され、水田の整備が進められている。

昭和22年



昭和59年



昭和39年



平成6年



昭和45年



平成14年



大谷川、三木川付近の水田は、昭和22年以前から区画整理されたと思われる、長方形の水田の中を両河川は直線的に流下している。昭和45年から昭和59年の間に三木川下流部の改修工事が実施されている。

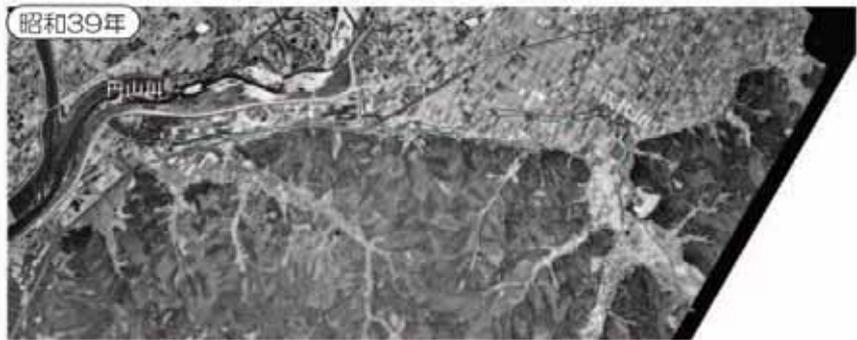
昭和22年



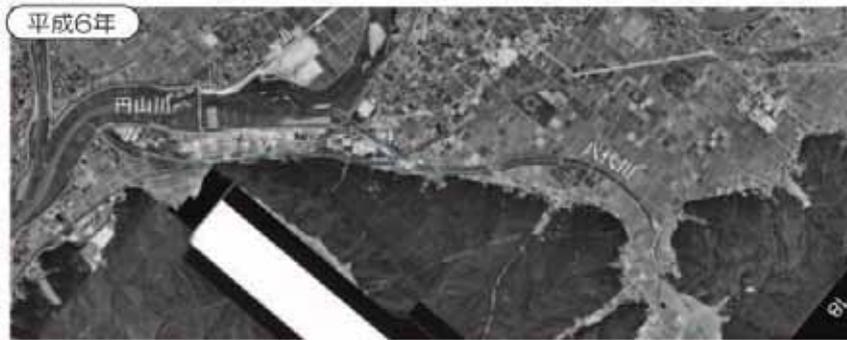
昭和59年



昭和39年



平成6年



昭和45年



平成14年



八代川の河川改修工事は昭和40年から始まり、平成の初めまで実施されている。航空写真では、昭和59年度には河道の築堤が終了し、円山川へのバイパス水路を建設中である。昭和45年以前の写真では、自然河川が残されている。

4. かつての円山川の姿

愛宕山より下流（昭和 27 年）



流域内の水田が湿田であった頃の風景。

愛宕山から望む豊岡市街地（昭和 24 年）



堀川橋上流（写真左）の左岸には、旧川跡や河跡湖がみられる。

野上渡しの通学風景（昭和 35 年）



野上付近の渡しで船に乗り通学していた子供たちの様子。日常生活の中で川との関わりが保たれていたことがわかる。

愛宕山より堀川橋（昭和 27 年）



現在の六方排水機場付近の様子（写真手前は六方川）。本川の高水敷は広く耕作地として利用されていたことがうかがえる。

堀川橋船着場（昭和 46 年）



円山川本川は、以前は小さな子供たちでも水際に近づきやすい川であったことがうかがえる。

堀川橋下より下流を望む（昭和 27 年）



昭和 27 年頃には、円山川下流域においても非常に緩やかな河岸勾配が形成されていたことがわかる。

大磯町付近・左岸堤防より下流を望む（昭和27年）



手前にみられるのは、かつて高水敷上に残っていた旧流路跡である。

京口橋から大磯を望む（旧流路）（昭和26年）



水際部には水生植物群落がみられ、多様な河岸が形成されていたことがうかがえる。

立野大橋付近で泳ぐ子供たち（昭和22年）



昭和10年頃

立野大橋付近では昭和10年当時、既に護岸された様子がみられるが、水辺には近づきやすく、昭和20年代にも子供たちが泳ぐなど身近な川であったことがうかがえる。

円山大橋より下流（昭和26年）



河道内には浅場や寄州が形成され、高水敷で放牧されていた牛が川に下りるなど緩やかな河岸勾配であったことが分かる。

中ノ郷の渡しの風景（昭和35年）



写真対岸には開けた寄州が形成され、礫混じりの河原となっている。また、河岸部には水生植物がまとまってみられ、多様な水際環境となっている。

出石川の風景（昭和35年）



河川と高水敷との比高が小さく、自然河岸が残されている。また、河岸勾配も緩やかであり、水域～陸域の連続性がみられる。